



TITLE:

静脩 Vol. 18 No. 2 (1982.1) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 18 No. 2 (1982.1) [全文]. 静脩 1982, 18(2)

ISSUE DATE:

1982-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65973>

RIGHT:



# 静脩

1982年1月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 18, No. 2

## 共通閲覧証による国立大学図書館間相互利用制度について

国立大学の附属図書館で組織する国立大学図書館協議会では、かねてから、国立大学に所属する研究者を対象とする国立大学図書館間の相互利用について検討・審議してきましたが、昨年6月23日の同協議会第28回総会において、下に掲げるとおり「国立大学図書館間相互利用実施要項」および「国立大学図書館間相互利用実施細則」を定め、

その後、この制度の実施に必要な「国立大学図書館間共通閲覧証」「利用の手引」の準備をおえ、本年1月15日から実施することになりました。この「国立大学図書館間共通閲覧証」申込用紙および「利用の手引」は附属図書館閲覧課閲覧貸付掛ならびに各部局の担当掛に備えつけてありますのでお問い合わせ下さい。

### 国立大学図書館間相互利用実施要項

(昭和56.6.23 第28回国立大学  
図書館協議会総会決定)

#### 1. 目的

この要項は、国立大学に所属する研究者の研究・教育活動に資するため国立大学図書館に所属されている図書館資料の円滑な相互利用を促進することを目的とする。

#### 2. 対象

この要項は、国立大学図書館協議会に加盟している大学図書館間における研究者による相互利用に対して適用する。

#### 3. 定義

この要項における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 国立大学図書館：各大学において附属図書館を構成する中央図書館、分館、部局図書館・室等をいう。
- (2) 研究者：国立大学に所属する教職員、大学院学生及びこれに準ずる者をいう。これに準ずる者は、その者が所属する大学の附属図書館長が認める者をいう。
- (3) 相互利用：研究者が他国立大学図書館に出向いて、その所蔵資料を直接利用することをいう。

#### 4. 相互利用の範囲

相互利用の範囲は、館内における閲覧を原則とし、その方法は当該大学図書館の定めるところによるものとする。

#### 5. 相互利用の手続

相互利用を希望する研究者は、あらかじめ所属大学の図書館長に申請し、「国立大学図書館間共通閲覧証」の交付を受け、利用時にこれを利用受入館に提示するものとする。  
「共通閲覧証」の様式は別に定める。

#### 6. 相互利用の制限

利用受入館は、当該大学に所属する利用者の利用が著しく妨げられると判断した場合には、相互利用を制限することができる。

### 国立大学図書館間相互利用実施細則

1. この細則は、国立大学図書館間相互利用実施要項に掲げる目的を達成するために必要な事項を定めたものである。
2. 相互利用方式  
要項にいう「国立大学図書館間共通閲覧証」による共通閲覧証方式とするが、従来より実施中の他の方式を排除するものではない。
3. 国立大学図書館間共通閲覧証  
ア、様式は別紙のとおりとする。  
イ、有効期間は当該年度とする。  
ウ、本証利用上の注意事項の周知に努める。
4. 利用受入館  
要項3の(1)にいう国立大学図書館であるが、当該大学の事情により、1大学で中央図書館のみが利用受入館となることがある。
5. 相互利用マニュアル  
各館の利用上の留意事項を盛り込んだ相互利用マニュアルを全館が所持するものとする。

## 既存の書誌データベース(LCMARC)を利用した 図書目録システム

附属図書館整理課洋書目録掛 片 山 淳

### はじめに

ERIC, JOISの解説と異なり, MARC (Machine Readable Cataloguing) は, 情報の提供をサービス機能として行っている図書館の資料整理(目録)システムの機械化によって産出されるものであると同時に, システム自体をも示す

ものでもある。従って, 目録作業のプロセスが重視され, この報告も, 既存の書誌データベースLCMARC(米国議会図書館機械可読目録)を使用して開発を試みた実験のあらましの紹介に終始する。

79年度にLCMARC(Books)磁気テープ(デ

表1 LCMARC(実験用)データ構成表

Elements of LCMARC

項 目	内 容	*Index inverted	*Text	項 目	内 容	*Index inverted	*Text
KW	キーワード		T	S 440	〃 (トレーシング されたもの)	I	
L001	LC番号	I		S 490	双書表示(トレーシングと 異なるもの)	I	
Y008	刊行年	I		N500	一般注記		
I008	(LCの固定長フィールド で京大では出していないもの 全てを含む)			N501	合本注記		
T008	資料タイプ			N502	学位論文注記		
C008	出版国コード			N503	書誌的経歴の注記		
L008	言語			N504	内容中の書誌に関する注記		
I020	ISBN	I		N505	内容注記		
L041	二種以上の言語			N520	抄録か注釈についての注記		
G043	地域コード			H600	件名副出—個人名	I	
C050	LC請求記号	I		H610	〃 —団体名	I	
D082	DC分類番号	I		H611	〃 —会議名	I	
A100	基本記入—個人著者	I		H630	〃 —統一書名	I	
A110	〃 —団体著者	I		H650	〃 —普通件名	I	
A111	〃 —会議	I		H651	〃 —地名	I	
A130	〃 —統一書名	I	T	A700	副出記入—個人名	I	
T240	統一書名	I	T	A710	〃 —団体名	I	
T241	非ローマ字言語のローマ字 化したタイトル	I	T	A711	〃 —会議名	I	
T245	書名+著者	I	T	A730	〃 —統一書名	I	T
E250	版表示			A740	別形式で副出する書名	I	
P260	出版事項			S800	叢書副出(個人名+双書名)	I	
C300	対照事項			S810	〃 (団体名+双書名)	I	
B350	価格			S811	〃 (会議名+双書名)	I	
S400	シリーズ名—個人名	I		S830	〃 (統一書名+双書名)	I	
S410	〃 —団体名	I		S840	〃 (双書名)	I	
S411	〃 —会議名	I		X900	所蔵表示		

表注) LCのDataelement ではあるが, 実験では採用しなかったもの。

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 010 LC Card number                  | 071 NAL Copy statement                           |
| 011 Linking LC Card number          | 072 NAL Subject category number                  |
| 015 National bibliography number    | 080 UDC  |
| 017 U.S. Copyright number           | 086 "Superintendent of documents classification" |
| 025 Overseas acquisition number     | 506 "Limited use" note                           |
| 035 Local system number             | 660 NLM Subject headings                         |
| 042 Search code                     | 670 NAL Subject headings                         |
| 051 Copy, Issue, Offprint statement | 690 Local Subject headings (Topical)             |
| 060 NLM Call number                 | 691 Local Subject headings (Geographical)        |
| 070 NAL Call number                 |  |

ータ：1978年前半，98,909件）が入手され，これを利用した図書目録システムの開発実験が，大型計算機センターの開発プロジェクトとして試みられた。その概要を振りかえりながら紹介を試みる。

### 1. LCMARC の構成要素・検索

大型センターの富士通の情報検索システム F A I R S (Facom Advanced Information Retrieval System) にのせるためのコード変換がなされた際，構成要素をどの程度取り入れたものにするかが仮定され，表1で示すような52の項目がエレメントとされた。

その中で，システムの機能から，検索を迅速にする転置ファイル(Inverted File)を構成することによって利用者に迅速に情報が提供できる項目が指定された。(表中の I 及び T で示されているもの) このファイルは，各項目の値(文字列)がそのまま検索の対象となる I N D E X 属性(I)と，文章形式の項目の値から単語を抽出し，これら抽出された単語が対象となる T E X T 属性(T)の二種がある。後者は，単語と単語の位置関係(熟語，同一文中の単語であるかどうか)，及び，英小文字を考慮した検索が行えることが特徴である。

エレメントに指定された項目は，データ量によって時間がかかるが検索は可能である。転置ファイルに指定されたものは，現在の図書館界で手掛りとされている標目に対応するもので，迅速な提供が必要なものについてである。

なお，検索例は紙数の都合で省かせていただく。

### 2. 所在情報の形成

利用者の目録利用の最終目的は所在情報である。書誌情報データベースである L C M A R C の総合目録としての機能は，所在情報と結びついて初めて充全となる。この情報の入力・形成については，コマンドによる入力も可能であり，分担目録作業(Shared cataloguing)を有効にする方法，形式が探求されねばならない。これによってネットワーク参加館の必要とする書誌ツール，及び，業務上必要な書類を作成することが可能となる。

実験では，京大学内とし，部局コード，登録番号，受入年月日，請求記号で構成したものを使用した。

### 3. Local Input — 利用者の要求に即応できる書誌情報の入力 —

L C M A R C を閲覧用総合目録として機能させるために，目録すべき資料の書誌情報が格納されてない場合に各端末館での形成が必要となる。この入力形成が Local Input である。

既存の書誌データベースを継続的に購入し，up-to-date するとしても，受入れた資料に対応する書誌情報が常にあるとは限らない。この空白を埋める方法としてあるが，書誌情報のレベルが相互に変換可能な形で標準化されている必要がある。この点での検討の必要性はいうまでもない。

この実験では，入力方法について，① Line モード，② Screen モードで行うことが試みられた。情報の一覧性，入力にかかる時間等から②の方法が有効だと思われる。

入力レベルについては，L C と同程度まで詳細な入力の方法も開発された。

入力データの点検・編集については，端末の段階での蓄積を経た方法が試みられた。

### 4. 出力形式

M A R C によると，一つの資料について利用者が手掛りとする書誌的項目のほとんどを盛り込むことができる。従って，検索も多様となり，出力形式も様々な形が可能となる。

現実の目録作業及び利用からすれば，カード形式の出力は不可欠だが，それを含めて，C O M (C-

#### カード形式出力例

Picture books : # papers presented at the course offered by the School of Librarianship through the Division of Postgraduate Extension Studies, U.N.S.W., 15th-18th May, 1973 / # edited by Margaret Trask. Ken sington, N.S.W.: # School of Librarianship, University of New South Wales, # 1974.  
84p. ; # 27 cm.

PN1009.A1

78312095

Harrod, Leonard Montague, # 6905-

The librarians' glossary of terms used in n librarianship, documentation and the book crafts, and reference book / # Leonard Montague Harrod. London: # A. Deutsch, # 1977.

903p. ; # 23cm.

Z1006

78320722

従って、各参加館の必要とする出力の把握，調整，業務の流れの整備が望まれる。

## Shared Cataloguing で基本的で不可欠のもの

A001	Authority record control number.
A008	Fixed length data elements.
A010	LC authority record control number.
A013	Link to bibliographic record.
A035	Local system number.
A040	Cataloguing sources.
A042	Authentication center.
A043	Geographic area code.
A045	Chronological coverage code.
A050	LC classification number (formatted).
A053	" (unformatted).
A100	Established heading - Personal name.
A110	" Corporate name.
A111	" Conference name.
A130	" Uniform title.
A150	" Topical subject.
A151	" Geographic name.
A260	See reference - General explanatory (subjects).
A360	See also reference - General explanatory (subjects).
A400	See from reference - Personal name.
A410	" Corporate name.
A411	" Conference name.
A430	" Uniform title.
A450	" Topical subject.
A451	" Geographic name.
A500	See also from reference - Personal name.
A510	" Corporate name.
A511	" Conference name.
A530	" Uniform title.
A550	" Topical subject.
A551	" Geographic name.
A664	Note - Cataloger generated (names).
A665	" Information or history (names).
A666	" General explanatory reference (names).
A667	" Usage or scope (names).
A668	" Characters in nonroman alphabets.
A670	" Source data found (names).
A675	" Source data not found (names).
A676	" Cataloguing rules (names).
A678	" Epitome or bibliographical summary (names).
A680	" Scope note (subjects).
A681	" Example under/note under (subjects).
A699	" Temporary scope note (subjects).
A880	Sorting field.

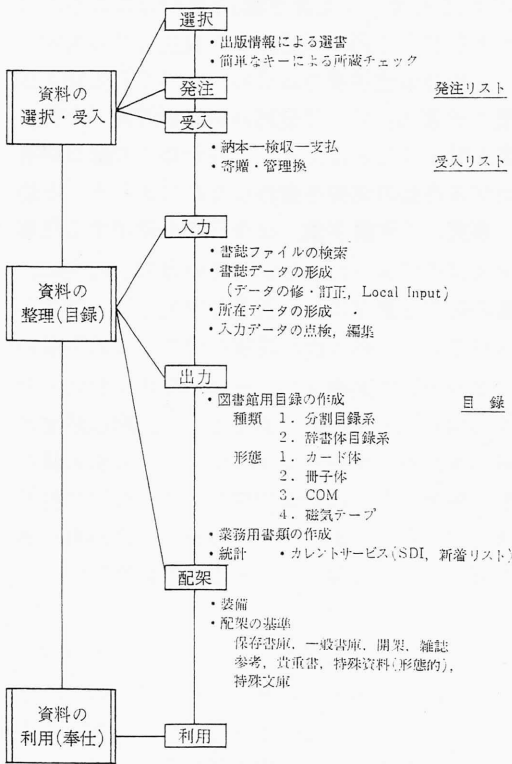
が典拠コントロールである。項目の内容は同一なのに異なった形式のものに分かれてしまうという混乱を防ぎ、正確で均整化された情報の形式に支えられた整備された目録とするために、これをどのような形で採り入れるかが検討される必要がある。これまでにシステム化されていない領域だと言え、表現形式の多様な固有名(著者、団体、会議、地名etc)、重層的構造をもつ件名に於ける典拠コントロールの有効な方法の開発が課題だ。F A I R Sで検索できる L C の Authority File は、L C で割によく使用されているものについてであり、全てをカバーしたものではない。以下に L C M A R C (Authority) のフォーマットと現在入っている形式を示しておく。(表 2. 3)

<u>Name Authority</u>	
# 1	
C001	n00770050480
A008	770727na a 004
A100	Mark, David M. n001770802aabann.....nnn... (10aw)
A400	Mark, D. M. n004770802aanann.....nnn... (10aw)
<u>Subject Authority</u>	
# 1	
C001	sh0780013990
A008	730719 b a 008
A150	Advertising Libraries n001730719aannnnnnnnnaa..... (Oaxw)

これまでに記してきたものを目録システムの概念図として整理することでまとめとしたい。

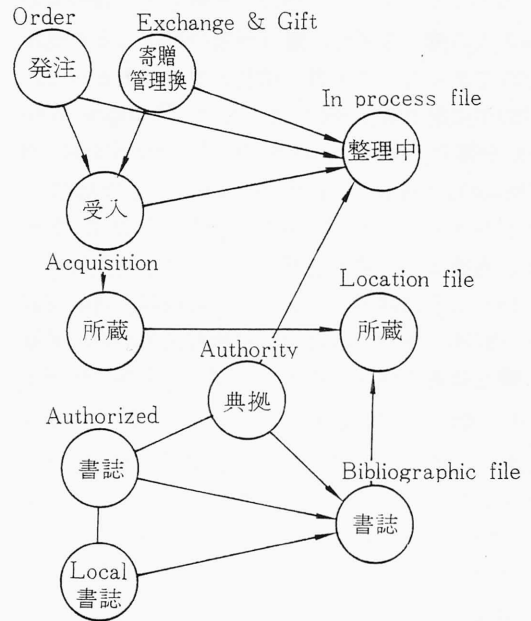
- 4 -

図書目録システム概念図



ことは、図書館（員）にとっても大きな意味があると言える。  
(以上)

図書目録システムファイル構成



## 美本「和蘭字彙」について

附属図書館 廣庭基介

附属図書館の新営工事を間近に控え、書庫内蔵書の移動作業をすすめるなかで、明治36年に建てられた旧書庫の一隅において、桐箱入りの新品同様に美しい「和蘭字彙」（全17冊、ゾーフ原編、桂川甫周校訂、安政2年 江戸 山城屋佐兵衛刊）を見ることができた。これと同じものは本学には、この他に13冊本と9冊本が本館に、また別の13冊本が文学部言語学教室に架蔵されており、「国書総目録」（岩波刊）によれば、わが国全体では29部の存在が確認されているのであるが、ここに紹介しようとする17冊本ほど美しい状態のものは稀なのではないかと思われる。

この江戸末期に刊行された蘭日辞書は、徳川家

の奥医師であった桂川甫周が代表となって校訂板行されたもので、校訂される前のものは、「福翁自伝」において、緒方洪庵の適塾の書生たちが、諸大名からの注文を受けて書写に精をだしたと記されている、彼の有名な「ゾーフ・ハルマ」にはかならない。換言すれば、書写によって流布された「ゾーフ・ハルマ」を校訂して印刷・出版したものが「和蘭字彙」ということになる。

周知のように、ゾーフとは、寛政11（1799）年出島のオランダ商館の書記として来日し、享和3（1803）年、27才で商館長に就任、文化14（1817）年に離日するまでの約17年間を日本でくらし

Hendrik Doeff (1777~1835) のことである。彼は、日本語が非常に堪能であったが、出島に勤務する幕府の蘭通詞たちの多くが、あまりにもオランダ語に精通していないために相互の真意が通じにくかったので、彼等の語学向上に供することを目的として、文化8 (1811) 年頃から、優秀な通詞9人の協力を得て、蘭日辞書の自作にとり組んだのであった。その際、模範とする辞書として、1729年に第2版が発行されていた François Halma 編纂の「Woordenboek der Nederduitsche en Fransche talen」を用いたので、この辞書を「ゾーフ・ハルマ」と呼ぶようになったのである。当時は、「道富波留麻」とか「道氏波爾麻」というふうに書かれ、これより約15年以前の寛政8 (1796) 年、江戸において稲村三伯がわが国初の蘭日辞書を作った時にも、奇しくも同じ F. Halma の蘭仏辞書に範をとったことから、「波留麻<sup>ッダ</sup>和解」と名付けられたのを、巷間「江戸ハルマ」と呼ぶのに対して、「ゾーフ・ハルマ」の方を、「長崎ハルマ」と呼ぶようになった。

「ゾーフ・ハルマ」は編纂にとりかかってから5年後の文化13 (1816) 年に初稿が完成したのであるが、その頃、ゾーフの故郷はナポレオンの軍隊によって占領されていたにもかかわらず、幕府をはじめ、日本人の多くがゾーフたちに変わらぬ好意と協力をもって接してくれたので、その謝意をこめて、出来あがった初稿本を長崎奉行に提出したのであった。しかし、奉行所がそれを江戸表へ転送するらしいことを知ったゾーフは、当初そのように中央政府にまで奉呈するつもりではなかったのか、もっと完璧に校訂を深める必要を感じて、再び通詞たちの協力を求めて、第2稿の校訂に着手したのである。所が、ゾーフは、翌文化14 (1817) 年、その第2稿の完成を待たずに帰国を命ぜられて日本を去ってしまった。彼のやり残した仕事は、通詞たちの努力によって文政2 (1819) 年頃に完了し、江戸に伝えられて「ゾーフ・ハルマ」として書写により流布したといわれている。

このあと、「ゾーフ・ハルマ」は更に精密な校訂を加えられ、いわば第3稿本ともいうべきものができて、これを甫周が一家一門をあげて転写し

た上、それを底本として校訂、出版したのが、この「和蘭字彙」なのである。何故、甫周が「道富ハルマ」とせずに「和蘭字彙」と名付けたのか、杉本つとむ著「江戸時代蘭語学の成立とその展開」には、当時の漢学者をはじめ、すべての知識人から最も信頼されていた最高の中国語辞書「字彙」の名を冠することによって、自分たちの蘭日辞書に対する自負の気持を表わしたのであろう、と述べ、事実、「和蘭字彙」は今日でも通用する見事な出来ばえであった。しかしその自信とは逆に、本書の緒言と跋文には、謙虚な学究らしい文言が記されている。例えば、緒言の中で、この辞書の刊行を決意した動機は、ゾーフの長年にわたる労苦を万世に伝えるためであるといい、蘭仏辞書の作者ハルマや、マーリン (P. マーリンも別の蘭仏辞書の編者) などの先輩大家でさえ、校訂に校訂を重ねたくらいであるから、自分たちの辞書に誤りがないとはいえない、と不安の気持を語っている。

跋文では、この校訂作業に、弟の知春と橘堂、妹の香月、その他一門の社友全員が助け合い、協力しあって励んだこと、原作者ゾーフの学恩に感謝し、ゾーフに協力した蘭通詞たちの労苦に対しても思いを到す言葉を加えることを忘れなかったのである。またこの辞書を作るに際して、自分たちが楽しく学ぶという気持であったとも述べているのである。

板下からは数人の筆跡をうかがうことができ、蘭字にも多少巧拙の差が見られるし、中には女性の手と思われる部分もある。しかし、現今とちがって、ローマ字に親しむ機会など皆無であった当時にしては、実にのびのびとした美しい横文字が綴られていることに感心しないわけにはいかない。稀に訳し切れずに白紙のままの語もあるなど、ほほえましい部分もあるが、今でも江戸時代最高の外国語辞書であると評価する学者が多いのである。

ただ、甚だ惜しいことは、この辞書の完成が、明治維新に先立つこと僅か10年という年であったことである。すでに新知識を求める人たちは、英学の方に関心を向けはじめていたために、作者た



ちが考えたほど活用されるにはおそすぎたのであった。

なお、本書の寄贈者は、江馬益也という人で、同氏は、本書と同時に、貴重な蘭医関係の洋書27点も本学に寄贈されており、それらの中に、江戸中期以後、名蘭医として活躍した美濃大垣藩藩医

江馬蘭斎の手沢本が含まれていること、及び明治24年になくなった江馬家の後裔で名医でもあった江馬活堂の本名が元益であること、の2点から、この「和蘭字彙」が本学に寄贈された明治33年当時の江馬家の当主であったと考えられる。

## 本学の蔵書400万冊をこえる

本学の蔵書が12月2日で400万冊をこえました。

明治30(1897)年6月、京都帝国大学の創立時和漢書:37,746冊、洋書:5,315冊、計:43,061冊の蔵書で発足し、昭和8(1933)年に100万冊、昭和33(1958)年に200万冊、昭和47(1972)年に300万冊を超え、今回、400万冊をこえたものです。

ちなみに、わが国では東京大学が501万冊、国立国会図書館が363万冊(いずれも昭和56年3月31日現在)(注)国立国会図書館は他に地図・レコード・マイクロ資料で約35万点所蔵している。)となっており、本学は東京大学に次ぐ第2の蔵書を有することとなります。

本学の蔵書の中には、内外に誇りうる貴重図書として、「近衛文庫」、「維新特別資料文庫」、「富士川文庫」、「中院文庫」、「谷村文庫」、「旭江文庫」、「清家文庫」等17の特殊文庫をはじめ、稀覯書も多くみうけられます。なかでも後世に永く保存すべき図書として、文化財保護法に基づき重要文化財に指定されたものが、37種168冊を有していることは特筆に値します。

このように質・量ともに優れた本学の蔵書は、本学の学術研究・教育・学習のみならず、全国の研究者にとっても大変有益な資料として、広く利用されることが期待されます。

### — 資料紹介 —

## 大 山 文 庫

本文庫に収められている書物は、本学名誉教授故大山定一先生の所蔵されていた洋書(1231部、1451冊)を、くま子夫人をはじめ御遺族の御好意により、文学部が譲り受けたものである。

大山定一先生は、明治37年香川県琴平町にお生まれになり、昭和3年京都帝国大学文学部を卒業後、第三高等学校講師、京都帝国大学文学部講師、法政大学予科講師、京都ドイツ文化研究所講師などを歴任されたのち、昭和21年京都大学文学部助教授、昭和25年同教授となられ、以後、昭和43年3月に停年退官されるまで、文学部ドイツ語学ドイツ文学講座の主任教授として多大の功績をのこされた。また昭和41年から2年間、文学部長としての重責をはたされた。本学を御退官後も、関西学院大学文学部教授として活躍されていたが、昭和49年7月1日に御逝去になった。

大山先生のお仕事は、周知のごとく Johann

Wolfgang Goethe および Rainer Maria Rilke の研究や翻訳を中心として、ひろく近代から現代にいたるドイツ文学全般にわたっているが、本文庫に収められた御蔵書からも、大山先生の文学的関心の多面性と造詣の深さをうかがうことが出来る。したがってその内容は Goethe や Rilke 関係の文献をはじめとして、Gotthold Ephraim Lessing や Heinrich Heine に関する従来本学に欠けていた文献や、現在では入手しがたい19世紀末から今世紀前半にかけて刊行された貴重な研究資料が広範囲にわたって収集されている。

文学部図書室では昨秋この文庫の整理を終了、文学科書庫に備付けて研究者の利用に供しているが、7月には冊子目録の編集も完成して「大山文庫目録」を刊行することが出来た。ここにあわせて報告させていただく次第である。

(文学部・村橋ルチア)



昭和55年度蔵書統計

(昭和56年3月末現在)

種別 部局別	増加数			累計		
	和書冊	洋書冊	合計冊	和書冊	洋書冊	合計冊
図書館	9,069	2,857	11,926	373,517	149,455	522,972
文学部	6,921	7,400	14,321	377,357	229,981	607,338
教育学部	1,701	1,189	2,890	40,179	35,160	75,339
法学部	4,034	4,000	8,034	183,044	243,070	426,114
経済学部	3,791	2,097	5,888	154,412	159,689	314,101
理学部	448	3,589	4,037	34,589	170,833	205,422
医学部	1,067	1,766	2,833	30,966	82,742	113,708
病院	71	173	244	11,344	21,483	32,827
薬学部	110	1,007	1,117	7,639	15,469	23,108
工学部	3,230	6,418	9,648	109,558	199,856	309,414
農学部	2,570	2,040	4,610	143,670	127,117	270,787
農場			0	1,014	103	1,117
演習林	330	71	401	7,012	2,666	9,678
教養部	7,885	6,813	14,698	212,460	167,587	380,047
化学研究所	113	896	1,009	6,880	24,642	31,522
人文科学研究所	7,409	1,951	9,360	315,618	42,500	358,118
結核胸部疾患研究所	9	246	255	1,698	2,648	4,346
原子エネルギー研究所	147	507	654	3,626	8,010	11,636
木材研究所	100	153	253	4,257	4,152	8,409
食糧科学研究所	162	394	556	3,221	6,740	9,961
防災研究所	320	812	1,132	6,593	12,604	19,197
ウイルス研究所	22	1,004	1,026	302	5,798	6,100
経済研究所	1,148	1,312	2,460	24,893	16,913	41,806
基礎物理学研究所	131	990	1,121	2,691	21,909	24,600
数理解析研究所	111	2,407	2,518	3,881	47,875	51,756
原子炉実験所	384	665	1,049	11,852	19,454	31,306
霊長類研究所	120	435	555	2,062	4,551	6,613
東南アジア研究センター	883	2,051	2,934	6,859	18,657	25,516
大型計算機センター	51	324	375	424	2,844	3,268
ヘリオトロン核融合 研究センター	93	169	262	630	831	1,461
医療技術短期大学部	731	110	841	7,967	817	8,784
放射線生物研究センター	7	135	142	91	727	818
情報処理教育センター	1	8	9	212	260	472
本部	27	4	31	5,032	559	5,591
医用高分子研究センター	10	0	10	10	0	10
環境保全センター	2	0	2	2	0	2
合計	53,208	53,993	107,201	2,095,562	1,847,702	3,943,264

○本部：庶務・経理・施設・学生各部および保健診療所・保健管理センターを含む

京都大学附属図書館報「静脩」Vol.18, No.2 (通号71号) 1982年1月10日発行・編集：静脩編集委員会（責任者  
附属図書館事務部長）発行：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電大代751—2111(内線)2611～2643